KENWOOD

特定小電力トランシーバー

UBZ-BH47FR

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる場所に保管してください。

本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド

Kenwood Corporation

© B62-1859-20
09 08 07 06 05 04 03 02

目次

ご使用の前に

基本操作

応用操作

その他

説明上の注釈表記について

このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。

このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容（表示と意味）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意 (危険・警告を含む) を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容を示しています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) を示しています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容（左図の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜け）を示しています。

・お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、またはこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠危険

使用環境・条件

● 引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリン等の可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。

バッテリーパックの取扱について

バッテリーパックは以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

● 充電温度範囲は、5℃～40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。

● 専用充電器以外では充電しないでください。

● 本機以外の機器に取付けないでください。

● 火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解しないでください。

● 端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。

● 水の中に落した場合は使用しないでください。

● 液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

● 液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

⚠警告

使用環境・条件

● 交通安全上、運転しながら交信するのはおやめください。

● 電子機器 (特に医療機器) の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障･誤動作の原因となります。

● 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では、絶対に使用しないでください (電源も入れないでください)。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたすおそれがあります。

● 本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。

AC アダプターの取扱について

● AC100V 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● タコ足配線はしないでください。過熱・発火の原因となります。

● 濡れた手で電源プラグに触れたり、電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

● 電源プラグは AC コンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災･感電･故障の原因となります。

● 電源プラグの端子にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災や感電の原因になります。

使用方法について

● アンテナのごく近くに人・動物・ペット等がいるときは、電波を発射しないでください。やけど、目の異常の原因となります。

● 機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカーマイクロホン等のケーブルを首にかけないでください。怪我の原因となります。

● 本機に水が入らないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

● 水などで濡れやすい場所 (風呂場など) では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● 本機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災･感電･故障の原因となります。

● 本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● ストラップを持って、無線機を振り回さないでください。人に当ってけがを負わせたり、物に当って無線機が破損することがあります。

異常時の処置について

● 内部に水や異物が入った場合や、落としたり、ケースを破損した場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

● 落下などにより破損した部品には直接触らないでください。怪我の原因となります。

● 煙が出たら、すぐに電源スイッチを切り、バッテリーパックを外し､充電中は電源プラグを AC コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

● 雷が鳴り出したら､安全のため早めに電源スイッチを切り、充電中は電源プラグを AC コンセントから抜いて、ご使用をおひかえください。

保守・点検

● 本機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

お客様による修理は､危険ですから絶対におやめください。

⚠注意

使用環境・条件

- テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

- 直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

- 湿気の多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

充電器の取扱について

- 充電器のコードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電・故障の原因となることがあります。

- 充電器の電源コードを抜くときは、必ずプラグを持ってください。コードを引っぱると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。

使用方法について

- アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。

- スピーカー / マイクロホン端子にはオプションのイヤホン付きマイクロホンやヘッドセット、スピーカーマイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

- 乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用した時に静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じることがあります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカーマイクロホンをご使用ください。

- 旅行などで長期間使わないときは、電源スイッチを切り、バッテリーパックを外して、AC アダプターの電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

- イヤホンを使用するときは、電源を入れる前に音量ツマミを下げてください。聴覚障害の原因となることがあります。

保守・点検

- お手入れの際は、電源スイッチを切り、バッテリーパックや乾電池を外して、AC アダプターの電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

- 水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

電波法に関するご注意

- 本機裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線機の使用が禁止されている所があります。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内などでは使用しないでください。

ご使用にあたって

- 本機は 4 つの運用モードを搭載した、特定小電力トランシーバーです。
  - ・ノーマルモードでは 20 チャンネルに対応し、従来の 9 チャンネルと 11 チャンネルのどちらも使用できます。
  - ・同時通話モードやサイレントヒアリングモード、レピーターアクセスモードでは 27 チャンネルに対応し、従来の 9 チャンネルと 18 チャンネルのどちらも使用できます。

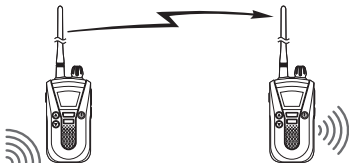
◆ノーマルモード (シンプレックス）<SP>

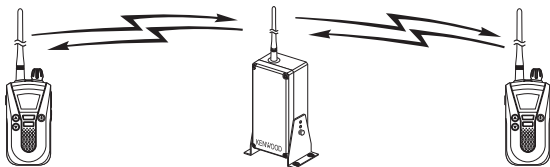
直接トランシーバー同士で送信 / 受信を切り替えて通話するモードです。

◆同時通話モード (フルデュプレックス） <Fdp>

直接トランシーバー同士で電話機のように送信 / 受信を同時に通話できるモードです。同時通話モードを使用するには、イヤホン付きマイクロホン EMC-5F またはヘッドセット KHS-28F や KHS-21 の接続が必要です。（その他のイヤホン付きマイクロホンやスピーカーマイクロホンは使用できません。）

◆サイレントヒアリングモード <SH>

マイクの感度を高くして連続送信するモードです。離れた部屋のようすを別のトランシーバーでモニターすることができます。

◆レピーターアクセスモード (セミデュプレックス) 中継 <Sdp>

レピーター (中継機)UBZ-RH27 や UBZ-RG27 を介して送信 / 受信を切り替えて通話するモードです。通話できる範囲が広がります。

- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。＜トランシーバー同士でハイパワー送信の場合＞
  建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。
  - ・市街地： 100 ～ 200 m
  - ・高速道路上の車と車： 300 ～ 500 m
  - ・見通しのよい場所： 1 ～ 2 km
- 本機単体は IP-55 規格に準拠した製品です。多少の水がかかっても問題はありませんが、蛇口からの水をかけたり、水の中に落としたりすると故障の原因になりますのでご注意ください。なお、スピーカー / マイクロホン端子カバーや DC 電源端子カバーを外したり、電池カバーが正しく閉まっていない場合は防水性能に準拠できなくなります。

IP-55(防塵・防噴流形): 内径 6.3mm のノズルにより全方向から毎分 12.5 リットルの噴流水を 3 分間かけても有害な影響がでない。

- スピーカー / マイクロホン端子にオプションを接続していて、付属のマイクプラグ固定金具で固定している場合は IP-54 規格に準拠します。
  (イヤホン (HS-9) を使用するときは、付属のイヤホンキャップを取り付けてください。)
  なお、オプション自体には防水性能はありませんので、水がかからないように注意してください。

IP-54(防塵・防沫形): 全方向からの水の飛沫によっても有害な影響がでない。

- 激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。

- テレビ、ラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

準備する

付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

・充電式リチウムイオンバッテリーパック (UPB-4L) 1
・充電器 (W08-0986-XX) 1
・AC アダプター (W08-1014-XX) 1
・ベルトフック (J29-0691-XX) 1
・ハンドストラップ (J69-0342-XX) 1
・イヤホンキャップ (B09-0698-XX) 1
・マイクプラグ固定金具 (J21-8516-XX) 1
・保証書 1
・サービス一覧表 1
・取扱説明書 (本書) 1

電池について

電池の使用可能時間の目安

■ リチウムイオンバッテリーパックの使用可能時間

ノーマルモード：約 **30** 時間 (外部スピーカー)*[1] / 約 **22** 時間 (内部スピーカー)*[1]
同時通話モード：約 **26** 時間 (送信出力 10 mW)*[2] / 約 **10** 時間 (送信出力 1 mW)*[3]

■ アルカリ乾電池の使用可能時間

ノーマルモード：約 **13** 時間 (外部スピーカー)*[1] / 約 **8** 時間 (内部スピーカー)*[1]
同時通話モード：約 **13** 時間 (送信出力 10 mW)*[2] / 約 **5** 時間 (送信出力 1 mW)*[3]

■ オキシライド乾電池の使用可能時間

ノーマルモード：約 **14** 時間 (外部スピーカー)*[1] / 約 **8** 時間 (内部スピーカー)*[1]
同時通話モード：約 **12** 時間 (送信出力 10 mW)*[2] / 約 **4** 時間 (送信出力 1 mW)*[3]

*[1]：測定条件：送信 6 秒 / 受信 6 秒 / 待ち受け 48 秒
(外部スピーカー：45 mW、内部スピーカー：180 mW)
*[2]：測定条件：送受信 3 分 / 待ち受け 12 分 (EMC-5F 使用時 (10 mW))
*[3]：測定条件：連続送信 (EMC-5F 使用時 (10 mW))

※電池の使用可能時間は使用環境により上記とは異なる場合があります。

電池の残量表示について

● 電池の残量目安を三段階で表示します。
1 個点灯になると、警告音が「ピーピーピーピー」と 4 回鳴り、電池が消耗していることをお知らせします。早めに電源を切りバッテリーパックを充電するか、予備と交換してください。（乾電池を使用している場合は、2 個点灯になったら新しい乾電池に交換してください。）電池が消耗していると、電源を入れるたびに警告音が鳴ります。

3個点灯（満充電時）

2個点灯（充電準備）

1個点灯（要充電時）

バッテリーセーブについて

- 電池の消耗を防ぐ機能です。受信待ち受け状態で約 5 秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作が行われるとバッテリーセーブは解除されます。

バッテリーパックの特性について

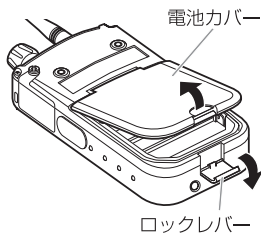
- 充電／放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- 高温状態で充電／放電を行ったり、無線機を使用すると寿命が短くなります。また、高温状態での保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- バッテリーパックを高温状態で放置すると使用できなくなります。電池パックが冷えてから使用してください。冷えても使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保存後は、電池容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。

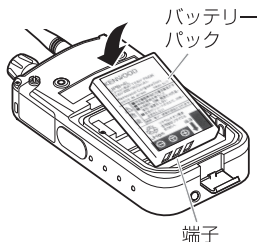
**不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
リサイクルにご協力お願いいたします。**

- バッテリーパック、充電器、AC アダプター、ベルトフックは専用の付属品を使用してください。
- お買い上げ時にバッテリーパックは満充電されていません。お使いになる前に必ず満充電にしてご使用ください。
- 長時間お使いにならないときは、 バッテリーパックを本機から取り出してください。
- バッテリーセーブは、オートチャンネルセレクト中とモニター中は動作しません。
- バッテリーパックの端子をショートさせたり、バッテリーパックを火中に投じたりしないでください。また、バッテリーパックを分解しないでください。
- 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、バッテリーパックの寿命です。このまま充電／放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しいバッテリーパックをお買い求めください。

バッテリーパックの入れかた

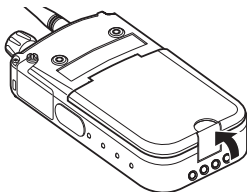
1 電池カバーを取り外す

ロックレバーを解除して、電池カバーを外します。

2 バッテリーパックを取り付ける

バッテリーパックは、ラベル面を上にして、端子を先に当ててから取り付けます。

3 電池カバーを取り付ける

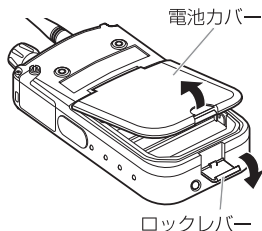
電池カバー上側を本体の溝に合わせて、ロックレバーを「カチッ」と音がするまで、押し込みます。

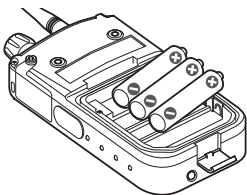
バッテリーパックを取り外す

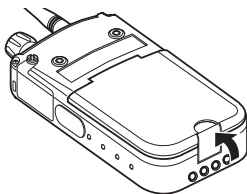
手順 *3* → *1* へ、取り付けと逆の手順でバッテリーパックを取り外します。

- 長時間使用しない場合は、本体からバッテリーパックを取り外してください。

乾電池の入れかた

1 電池カバーを取り外す

ロックレバーを解除して、電池カバーを外します。

2 乾電池を取り付ける

単四型のアルカリまたはオキシライド乾電池 3 本を+−を間違わないように取り付けます。

3 電池カバーを取り付ける

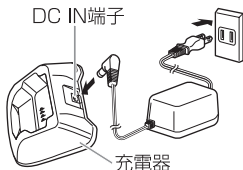
電池カバー上側を本体の溝に合わせて、ロックレバーを「カチッ」と音がするまで、押し込みます。

乾電池を取り外す

手順 *3* → *1* へ、取り付けと逆の手順で乾電池を取り外します。

- 乾電池は、3 本とも同じ種類の新しい電池を使用してください。異なる種類や古い電池は使用しないでください。
- 単四型充電式電池は使用しないでください。
- 長時間使用しない場合は、本体から乾電池を取り外してくださ

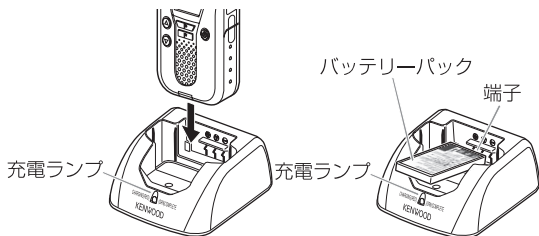
充電のしかた

はじめてお使いになるときや、使用後は必ず充電してください。

1 ACアダプターのDCプラグを充電器のDC IN端子に差し込む

2 ACアダプターのACプラグをACコンセントに差し込む

3 無線機またはバッテリーパック単体を充電器に差し込む

※無線機本体を充電器に差し込む時は、電源を切ってください。

充電ランプが赤色に点灯します。

4 充電ランプが緑色に点灯して、充電が完了する

本機またはバッテリーパックを抜き取ります。

充電時間の目安は4時間です。

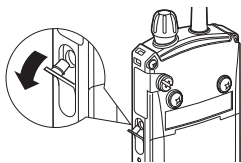
充電ランプの表示について
赤色：充電中　　　　　　緑色：充電完了

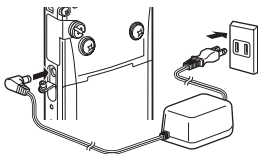
充電ランプが点灯しない、または赤色点滅する場合は・・・
- 本体に乾電池が入っている→バッテリーパックに入れ替えてください。
- バッテリーパックが異常である→新しいバッテリーパックを使用してください。
- 端子が接触不良になっている→端子を綿棒や乾いた布で拭いてから、再度充電してください。
- バッテリーパックが極端に高温または低温になっている→室温に戻してから、再度充電してください。

- **必ず専用のリチウムイオンバッテリーパックを使用して充電してください。**指定以外のバッテリーパックを用いて充電すると故障の原因になります。
- 充電端子を金属物などでショートさせないでください。
- 乾電池を入れているときは、充電器に差し込まないでください。
- 本体やバッテリーパックが濡れたままで充電すると、故障の原因になります。本体やバッテリーパックが濡れているときは、乾いた布でよくふき取ってから充電器に差し込んでください。
- 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。このまま充電／放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しいバッテリーパックをお買い求めください。
- 充電器の端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。
- 充電器の近くで無線機を使用すると、充電器が誤動作することがあります。

DC 電源端子の接続

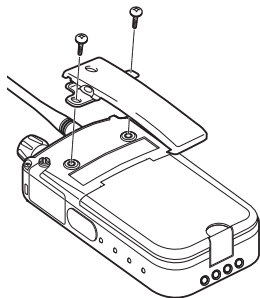
本機を自局レピーターやサイレントヒアリングモードで長時間使用する場合は、付属の AC アダプターを本機の DC 電源端子に接続してください。

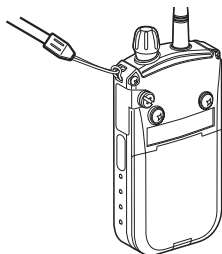
1　DC 電源端子カバーを開く

2　AC アダプターの DC プラグを本体の DC 電源端子に差し込む

3　AC アダプターの AC プラグを AC コンセントに差し込む

- バッテリーパックや乾電池は取り外してください。
- DC 電源端子を使用時は防水効果はありません。
- DC 電源端子を使用してのバッテリーパック充電はできません。

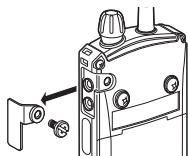
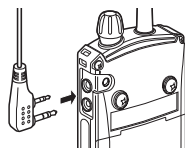
ベルトフックを取り付ける

ベルトフックと一緒に同梱されている取り付けネジ (3mm × 4mm) を使用して取り付けます。

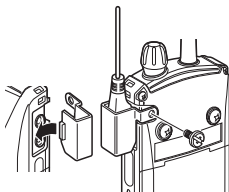
付属のベルトフックと本体のネジ穴を合わせて、付属のネジで止めます。

ストラップを取り付ける

本体上部のストラップ取り付け穴に、付属ストラップの紐を取り付けます。

スピーカー / マイクロホン端子にオプションを接続する

本機の防水効果を維持するために、イヤホンやイヤホン付マイクロホン、ヘッドセット、スピーカーマイクロホンを取り付けるときはマイクプラグ固定金具を必ず取り付けてください。

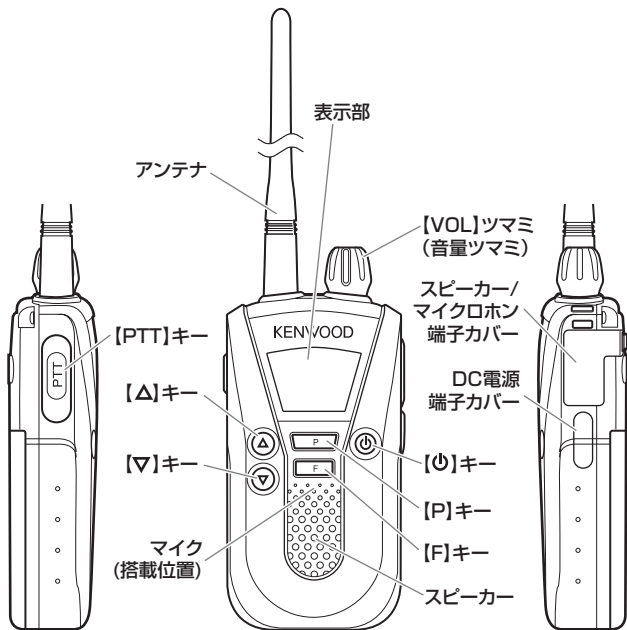
1 本体右部のスピーカー / マイクロホン端子カバーのネジをコイン等を使用してゆるめ、カバーを取り外す

2 オプションのプラグを接続する

イヤホン (HS-9) を取り付けるときは付属のイヤホンキャップをプラグに取り付けてから接続します。

3 マイクプラグ固定金具取り付ける

金具前面にある爪をスピーカー / マイクロホン端子部分の溝に合わせてから、ネジをコイン等を使用して確実に締め付けてください。

- マイクプラグ固定金具やイヤホンキャップを取り付けてないときは、スピーカー / マイクロホン端子は防水にはなりません。
- オプションを取り外すときは、プラグ部をしっかり持って取り外してください。ケーブルを持って取り外すと、断線の原因になります。

各部の名称

本体

表示部
アンテナ
【VOL】ツマミ
（音量ツマミ）
スピーカー/
マイクロホン
端子カバー
KENWOOD
【PTT】キー
PTT
DC電源
端子カバー
【△】キー
P
【⏻】キー
【▽】キー
F
【P】キー
マイク
(搭載位置)
【F】キー
スピーカー

キーの名称	通常の動作
【⏻】	· 電源の ON ／ OFF
【PTT】	· 送信 · コールトーン 1 の送出 (＋【▽】) · コールトーン 2 の送出 (＋【△】)
【△】	· チャンネルアップ (1 秒以上押すと早送り) · グループ番号のアップ (1 秒以上押すと早送り) · スクランブル機能の ON ／ OFF(スクランブル機能設定時) · オートチャンネルセレクトの開始 (1 秒以上) (オートチャンネルセレクトが ON に設定されている時)
【▽】	· チャンネルダウン (1 秒以上押すと早送り) · グループ番号のダウン (1 秒以上押すと早送り) · スクランブル機能の ON ／ OFF(スクランブル機能設定時) · オートチャンネルセレクトの開始 (1 秒以上) (オートチャンネルセレクトが ON に設定されている時)
【F】	· グループ番号／スクランブル設定の呼出し (グループ番号→スクランブル→チャンネルの順に選択) · キーロックの設定／解除 (＋【⏻】)
【P】	· モニター機能の ON ／ OFF · ファンクション設定の呼出し (＋【⏻】)

表示部

- 電源を入れてから 5 秒間表示部の照明が点灯します。【PTT】以外のキー操作を行うと、再び点灯します。【PTT】以外のキーを押し続けている間も、点灯し続けます。
- 「振」の表示は、本機では使用する機能はありません。

表示	説明
(電池アイコン)	電池の残量を表示
自 中継	自局レピーターモード中に点灯
中継	レピーターアクセスモード中に点灯
(サイレントヒアリングアイコン)	サイレントヒアリングモード中に点灯
(同時通話アイコン)	同時通話モード中に点灯
(鍵アイコン)	キーロックが ON に設定されているときに点灯
L	ローパワー送信に設定されているときに点灯
送信	送信中に点灯
受信	受信中に点灯
VOX	VOX が ON に設定されているときに点灯
秘	スクランブルが ON に設定されているときに点灯
888	グループ番号表示 ファンクション設定状態表示
(4桁セグメント表示)	送信 / 受信チャンネル表示 ファンクション設定機能表示

通話する（ノーマルモード）

相手の方と同じチャンネル番号を設定し、送信／受信を切り替えながら通話します。あらかじめ、運用モードを確認しておきます<→ 26 ページ>。

電源を入れる

1 【⏻】を 1 秒以上押す

電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

2 【VOL】を回し、音量を上げる

3 【△】または【▽】を押す

チャンネル番号を合わせます。
【△】または【▽】を 1 秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。
従来の 11 チャンネル機と交信するときは、1 ～ 11 に合わせます。
従来の 9 チャンネル機と交信するときは、h1 ～ h9 に合わせます。

例：3 チャンネルに合わせた場合

例：h3 チャンネルに合わせた場合

送信する

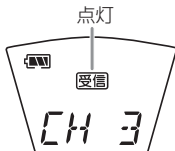
4 【PTT】を押しながら話す

「送信」が点灯し、送信状態になります。
マイク部から口を 5cm くらい離してお話しください。

- 「受信」が点灯中に**【PTT】**を押すと、「プー」と鳴り送信できません。相手の方からの送信が終了し、「受信」が消灯したら**【PTT】**を押して送信します。

受信する

5　【PTT】から指を離す

受信待受の状態で相手から送信されると、「受信」が点灯します。

手順 *4* と *5* の操作を繰り返して、通話します。

電源を切る

6　【⏻】を 1 秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

通話時間の制限について・・・

本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通話終了の 30 秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10 秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3 分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

続けて通話するときは、送信停止 2 秒後に【PTT】を押して相手を呼び出してください。

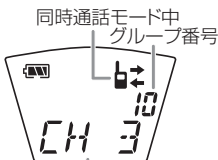
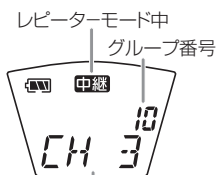
- 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方と共に、他のチャンネル番号を設定してください。
- 「近距離 (約 10m 以内) に他のチャンネルを使用しているトランシーバーがあると、h7 と 1、h8 と 2、h9 と 3 チャンネルの組み合わせで混信をおこす場合がありますので、多数のグループが近距離で運用する場合は、同一グループチャンネル (h1 ～ h9 または 1 ～ 11 チャンネル) 内での運用をお勧めします。
- キーロックを ON にすると、通話中に間違えてキーを押してもチャンネルやモードは変わりません<→ 37 ページ>。

- 本機には、基本通話の他に 2 種類の通話方法があります。必要に応じて設定してください。通話のしかたは基本通話と同じです。
  グループモード…仲間どうしで通話したいとき<→ 32 ページ>
  スクランブルモード…他の人に通話を聞かれたくないとき<→ 34 ページ>
- ノーマルモードでは、自動的に空きチャンネルを探す、オートチャンネルセレクト機能が使用できます<→ 46 ページ>。

運用モードの確認

本機には、次の 4 つの運用モードがあります。使用目的により、どちらのモードでも選択することができます。
運用モードは 41 ページのファンクション設定で選択します＜「運用モードを切り替える」→ 43 ページ＞。

ノーマルモード <SP>
本機どうしで送信と受信を交互に行ない通話する運用モードです。

同時通話モード <Fdp>
本機どうしで送信と受信を同時に行ない通話する運用モードです。＜「」が点灯する＞

レピーターアクセスモード <Sdp>
レピーター (中継機) を介して相手局と通信を行う運用モードです。＜「中継」が点灯する＞。
本機の通話エリアが拡大されます。
本機どうしで直接通信することはできません。
本機をレピーターとして設定 (自局レピーターモード) した場合は「自中継」が点灯します＜→ 40 ページ＞。

サイレントヒアリングモード <SH>
マイクの感度を高くして連続送信する運用モードです。
＜「」が点灯する＞

- 相手またはグループ全員が同じ運用モードに設定されてないと通信できません。
- レピーターアクセスモードに設定したときは、オプションのレピーターを併用、または本機の自局レピーターモードを使用しないと通話できません。

通話する（同時通話モード）

同時通話モードで通話するには、EMC-5F、KHS-28F または KHS-21 の接続が必要です。また、双方のグループ番号<→ 32 ページ>を合わせておきます。

運用モードが「同時通話モード」ではないときは、運用モードを「Fdp」に設定してください<→ 43 ページ>。

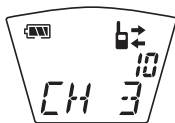
電源を入れる

1 【⏻】を 1 秒以上押す

電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

2 【VOL】を回し、音量を上げる

3 【△】または【▽】を押す

チャンネル番号を合わせます。
【△】または【▽】を 1 秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。

例：3ch、グループ 10 に合わせた場合

相手を呼出す

4 【PTT】を押す

※ EMC-5F/ KHS-28F 使用時は、EMC-5F/ KHS-28F の PTT スイッチを操作してください。

呼出し音が鳴ります。

呼出されたら

5 【PTT】を押す

呼出し音が鳴ったら 10 秒以内に【PTT】を一度押します。

6 お互いに【PTT】から指を離して通話する

※ EMC-5F/ KHS-28F 使用時は、EMC-5F/ KHS-28F の PTT スイッチを操作してください。

同時通信を終了する

7 【PTT】をもう一度押す

※ EMC-5F/ KHS-28F 使用時は、EMC-5F/ KHS-28F の PTT スイッチを操作してください。

通話が解除されます。

電源を切る

8 【⏻】を 1 秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

通話時間の制限について・・・

本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通話終了の 30 秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10 秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3 分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

同時通話モードでは、送信停止 2 秒後に現在のチャンネルが空いている場合は、自動的に通話を再開します。

- ローパワー送信での通信では、通話時間の制限はありません。

- EMC-5F、KHS-28F、KHS-21 以外のイヤホン付きマイクロホンやスピーカーマイクロホンでは同時通話モードは使用できません。
- 同時通話モードでは EMC-5F、KHS-28F、KHS-21 を接続しないで【PTT】を押した場合は、送信禁止になります。
- 同時通話モードで音声が途切れやすい時はファンクション設定の「デュプレックス保持時間」を変更してください< 47 ページ>。

通話する（レピーターアクセスモード）

レピーターアクセスモードで通話するには、双方のチャンネルとグループ番号<→ 32 ページ>をレピーターのチャンネルとグループ番号に合わせておきます。

運用モードが「レピーターアクセスモード」ではないときは、運用モードを「Sdp」に設定してください<→ 43 ページ>。

電源を入れる

1 【⏻】を 1 秒以上押す

電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

2 【VOL】を回し、音量を上げる

3 【△】または【▽】を押す

チャンネル番号を合わせます。
【△】または【▽】を 1 秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。
従来の 18 チャンネル機と交信するときは、1 ～ 18 に合わせます。
従来の 9 チャンネル機と交信するときは、h1 ～ h9 に合わせます。

例：3ch、グループ 10 に合わせた場合

例：h3ch、グループ 10 に合わせた場合

送信する

4 【PTT】を押し続ける

レピーターアクセスを確認します。
アクセス音（ピッ）が鳴ったら**【PTT】**を押したままで、手順 ***5*** へ移ってください。
エラー音（ピッピッピッ…）が鳴ったら手順 ***4*** の操作を繰り返します。

5 【PTT】を押しながら話す

「送信」が点灯し、送信状態になります。
マイク部から口を 5cm くらい離してお話しください。

アクセスが外れたら、再度手順 ***4*** から操作してください。

受信する

6 【PTT】から指を離す

受信待受の状態で相手から送信されると、「受信」が点灯します。

手順 ***5*** と ***6*** の操作を繰り返して、通話します。

電源を切る

7 【⏻】を 1 秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

通話時間の制限について・・・
本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通話終了の 30 秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10 秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3 分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

続けて通話するときは、送信停止 2 秒後に【PTT】を押して相手を呼び出してください。

- ローパワー送信での通信では、通話時間の制限はありません。

- レピーターアクセスモードに設定すると自局のチャンネル番号とグループ番号がレピーターのチャンネル番号とグループ番号に一致したときのみ通信可能となります。
- 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方とともに、他のチャンネル番号を設定してください。

グループで通話する（グループモード）

他のグループと同じチャンネルで交信している場合、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間どうしでグループモードを設定しておくと、混信がなくなって快適に通話ができます。

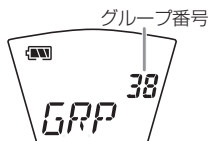
設定する

1 【F】を 1 秒以上押す

「GRP」と表示され、現在の設定が表示されます。

※ 同時通話モードでは、現在設定されている番号が表示されます。

2 【△】または【▽】を押す

「1 ～ 38」から選んでください【△】または【▽】を 1 秒以上押し続けると、押している間グループ番号は早送りされます。

3 【P】または【PTT】を押す

チャンネル表示に戻ります。

解除する

1 【F】を 1 秒以上押す

2 【△】または【▽】を押す

「oFF」を選びます。

※ 同時通話モードでは「oFF」は選択できません。

3 【P】または【PTT】を押す

チャンネル表示に戻ります。

- 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、「受信」が点灯します。この時に【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。
- バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返し行なうため、「受信」が点滅することがあります。
- レピーターアクセスモードで使用中にグループモードを解除すると、レピーター（中継器）は動作しなくなります。グループモードを解除する場合、レピーターのグループ番号も OFF に設定してください。
- チャンネル番号、グループ番号、スクランブルモードの設定は、通話する相手の方と設定を合わせてください。設定を合わせないと通話できません。

- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 2 で選択した状態が自動的に設定されます。
- 一度設定したグループ番号は、全チャンネル共通で使えます。

通話を聞かれないようにする (スクランブルモード)

グループモード時にスクランブルモードを設定すると、スクランブルモードを設定していない人は会話を聞き取れなくなります。
あらかじめグループ番号を設定してください<→ 32 ページ>。

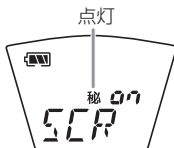
設定する

1 **【F】を 1 秒以上押す**

2 **【F】を 1 回押す**

「SCR」と表示され、現在の設定が表示されます。

3 **【△】または【▽】を押す**

「on」を選びます。
「秘」表示が点灯します。

4 **【P】または【PTT】を押す**

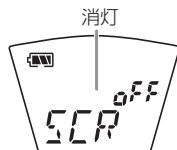
チャンネル表示に戻ります。

解除する

1 【F】を 1 秒以上押す

2 【F】を 1 回押す

3 【△】または【▽】を押す

「oFF」を選びます。
「秘」表示が消灯します。

4 【P】または【PTT】を押す

チャンネル表示に戻ります。

- チャンネル番号、グループ番号、スクランブルモードの設定は、通話する相手の方と設定を合わせてください。設定を合わせないと通話できません。
- グループ番号とスクランブルモードが一致した場合、第三者でも通信を傍受できます。高度な機密を要する通話では、本機のご使用をお薦めいたしかねます。

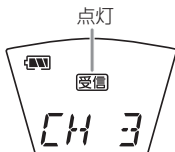
- グループモードを OFF にすると、スクランブルモードも OFF になります。
- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 3 で選択した状態が自動的に設定されます。

モニター

電波が弱いときに、スケルチを強制的に開き、信号の状態をモニターすることができます。また、音量を調整するときにも使用できます。

モニターする

【P】を押す

押している間「受信」が点灯し、モニター機能が動作します。
信号を受信していないときはザーという雑音がでます。音量を調整するときの目安にします。

解除する

【P】を離す

スケルチが閉じて、「受信」が消灯します。

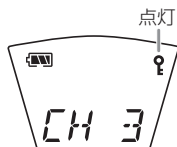
誤ってキーが押されるのを防ぐ（キーロック）

間違えてチャンネルやグループ番号を変えないように、キーをロックしておくことができます。

設定する

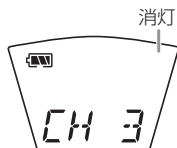
1 一度電源を切る

2 【F】を押しながら【⏻】を押して電源を入れる

「🔑」表示が点灯します。
キーロックが設定され、【△】【▽】【F】キーは動作しなくなります。

解除する

1 一度電源を切る

2 【F】を押しながら【⏻】を押して電源を入れる

「🔑」表示が消灯します。
キーロックが解除されます。

- キーロック中でも以下の機能は動作します。
  ●電源 ON ／ OFF　●送信　●コールトーン送出
  ●キーロック解除　●ファンクション設定　●オールリセット
  ●モニター ON ／ OFF

相手をコールトーンで呼び出す

相手を電話の呼出音のような音（コールトーン）で呼び出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

コールトーン 1 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【▽】を押す

押している間コールトーン 1 が送信されます。

コールトーン 2 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【△】を押す

押している間コールトーン 2 が送信されます。

サイレントヒアリングモード

サイレントヒアリングモードは、**【PTT】**を押し続けなくても送信を続ける機能です。マイクの感度が高くなり、離れた部屋のようすを別のトランシーバーでモニターすることができます。
チャンネルは 1 ～ 18 を使用してください。また、送信側、受信側のグループ番号も合わせてください。

運用モードが「サイレントヒアリングモード」ではないときは、運用モードを「SH」に設定してください**<→ 43 ページ>****。**

送信を開始する

送信する側の【PTT】を押す

送信を開始します。

送信を止める

送信する側の【PTT】をもう一度押す

- h1 ～ h9 チャンネルでは連続送信はできません。3 分間で送信が終了します。
- サイレントヒアリングモードでは送信出力はローパワー固定になります。
- 送信側のスピーカーは常に OFF になり、モニター側から送信しても、音声は聞こえません。
- 8時間で送信は終了します。また、送信終了前に告知音が鳴ります。再度送信したい時は**【PTT】**を押します。

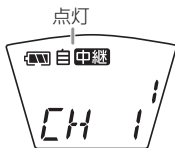
自局レピーターモード

本機をレピーターとして使用します。
無線機からレピーターとしての本機にアクセスする方法は「通話する(レピーターアクセスモード)」<→ 29 ページ>をご覧ください。

設定する

1 一度電源を切る

2 【PTT】と【F】を押しながら【⏻】を押して電源を入れる

「自中継」と表示され本機がレピーターとして動作します。

解除する

1 一度電源を切る

2 【PTT】と【F】を押しながら【⏻】を押して電源を入れる

自局レピーターモードが解除されます。

- 自局レピーターモードで動作している場合は、ファンクション設定で運用モードを切り替えても、自局レピーターモードは解除されません。他の運用モードに切り替える場合は、自局レピーターモードを解除してください。
- 通話が途切れやすいときは、アクセスするトランシーバーの信号が無くなっても送信を維持する時間を設定できます<「レピータ保持時間を設定する」→ 47 ページ>。

ファンクション設定

本機では通常の機能のほかに、以下のような機能が設定できます<詳細は 43 ～ 47 ページ>。

ファンクション設定機能一覧

機　能	表示	設定範囲
① 表示部の照明動作を設定する	BLIT	**AUTO**/ON/OFF
② 確認音を鳴らさないようにする	BEEP	**ON**/OFF
③ 自動で電源を切る	APO	ON/**OFF**
④ 運用モードを切り替える	MODE	**SP**/SDP/FDP/SH
⑤ VOX の感度を設定する	VOX	**OFF**/1 ～ 5
⑥ 会話の最後が途切れないようにする (VOX 遅延時間)	VDLY	0.3/**0.5**/1.0/1.5/3.0
⑦ スケルチレベルを調整する	SQL	OFF/**1**/2/3
⑧ 送信出力を切り替える	TXPW	**H**/L
⑨ 自動で空きチャンネルを探す	SCAN	ON/**OFF**
⑩ 自動で空きチャンネルを探す範囲を選ぶ	BAND	**ALL**/SBD
⑪ ボリュームが最小でも聞こえるようにする	MINV	ON/**OFF**
⑫ リモート機能を解除する	REMT	**ON**/OFF
⑬ ループ機能を使う	LOOP	ON/**OFF**
⑭ マイクの感度を設定する	MICS	H/**N**
⑮ デュプレックス保持時間を設定する	DPXH	OFF/**1**/2
⑯ レピーター保持時間を設定する	RPTH	**OFF**/3/5/8

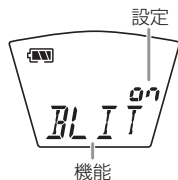
※**太字**は初期の値です。

1 一度電源を切る

2 【P】を押しながら【⏻】を押す

電源が入り、表示部にメニューが表示されます。

3 【F】または【P】を押す

設定したい機能を選びます (41 ページ参照)。

例：ランプ常時点灯

4 【△】または【▽】を押す

設定を選びます。

5 【PTT】を押す

設定を終了して、チャンネル表示に戻ります。なお、**【PTT】**のかわりに**【⏻】**を 1 秒以上押すと、設定を終了して電源が切れます。

① 表示部の照明動作を設定する【BLIT】

「**on**(ON)」に設定すると、表示部の照明 (バックライト) を常時点灯させることができます。

「**oFF**(OFF)」に設定すると、表示部の照明は常に消灯します。

初期の設定は照明が自動的に点灯／消灯する自動照明機能「**Aut**(AUTO)」になっています。

② 確認音を鳴らさないようにする【BEEP】

キー操作をしたときに鳴る確認音をビープ音といいます。

「**oFF**(OFF)」に設定すると、このビープ音を鳴らさないようにできます。

以下の警告音､予告音などはこの機能のON／OFFと関係なく鳴ります。

● バッテリー警告音　● 通信時間制限予告音　● APO 警告音　● 通話範囲外告知音　● 送信禁止音　●コールトーン

● レピーターアクセス音　●レピーターアクセスエラー音

● PLL アンロック音 (無効音)

③ 自動で電源を切る【APO 】

「**on**(ON)」に設定すると、1 時間 59 分間キー操作が行なわれなかった場合、電源を切り忘れたとみなして告知音を鳴らします。さらに同じ状態が 1 分間続くと、自動で電源を切ります。

モニター中やオートチャンネルセレクト中は APO は動作しません。

本機をレピーターとして使用する場合など、DC 電源端子に AC アダプターを接続するときは、「**oFF**(OFF)」に設定してください。

④ 運用モードを切り替える【MODE】

使用目的により、運用モード選択します。

「**SP**」: ノーマルモード

「**Sdp**(SDP)」: レピーターアクセスモード

「**Fdp**(FDP)」: 同時通話モード

「**SP**」: サイレントヒアリングモード

双方の運用モードが違うと通信はできません。

⑤ VOX の感度を設定する【VOX　】

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のヘッドセットなどのマイクが感知する音声レベルを設定できます。

声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。

「**oFF**(OFF)」の設定では VOX 機能は OFF します。

「**1**」～「**5**」では VOX 機能は ON になり数値が大きいほどマイクの感度が高くなります。

VOX 機能とは

【PTT】を押さなくても、マイクに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で受信待ち受け状態になります。

VOX 機能を使用する場合はオプション (別売品) のイヤホン付きマイクロホン EMC-5F やヘッドセット KHS-28F、KHS-21、HMC-3 または HMC-4 を使用してください。

- 本機単体でも VOX 機能は動作しますが、周囲の音で誤送信することがあります。オプションを接続してください。
- HMC-3 や HMC-4 を使用するときは、ヘッドセット側の VOX 機能を OFF、感度調整ボリュームを最小にしてください。
- SMC-34、EMC-2B、EMC-3 および EMC-6 は**【PTT】**を押さないとマイクが正常に動作しないため、VOX 機能を使用することはできません。
- VOX 機能は確認音が鳴っているとき、コールトーンが設定されているとき、およびスケルチが開いているときは使用できません。
- 電池容量が少なくなると、VOX は使用できなくなります。表示部の電池残量表示が減り始めたら早めにバッテリーパックを充電したり、新しい乾電池に交換してください。
- 信号を受信しているときは、送信できません。

⑥ 会話の最後が途切れないようにする (VOX 遅延時間)【V DLY】

VOX 使用時、会話の最後が送信されない場合があります。遅延時間を「**03**(0.3 秒)」～「**30**(3,0 秒)」に設定して、会話が最後まで送信されるように調整してください。数字が大きいほど遅延時間が長くなります。

⑦ スケルチレベルを調整する【SQL 】

受信のしかたを変えるために、スケルチレベルを調整することができます。

スケルチレベルを下げる (「**3**」→「**2**」→「**1**」) と、弱い信号を受信できます。

スケルチレベルを上げる (「**1**」→「**2**」→「**3**」) と、雑音が聞こえなくなります。

「**oFF**(OFF)」にすると、常にスケルチが開いた状態になります (常時モニター)。

⑧ 送信出力を切り替える【TxPW】

1ch ～ 18ch バンドでは、送信出力を下げることができます。

「**L**」に設定すると、送信がローパワーの約 1mW にます。

「**H**」に設定に戻すと、送信がハイパワーの約 10mW になります

- h1ch ～ h9ch やノーマルモードでの運用では送信出力を下げることはできません。
- サイレントヒアリングモード中は「H」に設定しても、ローパワー送信になります。ローパワー送信時の連続送信時間は最大 8 時間です。

⑨ 自動で空きチャンネルを探す (オートチャンネルセレクト)【SCAN】

ノーマルモードでの運用時に使用できる機能です。

グループで設定したチャンネルで通話ができない場合、自動で空いているチャンネルを探します。

目印にグループ番号を使いますので、あらかじめ同じグループ番号を決めてグループモードを設定してください。

オートチャンネルセレクトを使う

1 **設定を「on(ON)」にして、ファンクション設定を終了する**

2 **【△】または【▽】を 1 秒以上押す**

オートチャンネルセレクトが開始されます。

3 **【PTT】を 2 ～ 3 秒押し続ける**

空いているチャンネルで 10 秒ほど停止するので、**【PTT】**を押したまま通常よりゆっくり呼びかけます。

呼びかけが終ったら**【PTT】**から指を離し、相手の方がそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。

呼び出されると「受信」が点灯し、チャンネル番号が点滅します。

4 **「受信」が消えてから、【PTT】押して応答する**

オートチャンネルセレクトを解除する

スキャン停止中に【△】、【▽】または【F】を押す

表示しているチャンネルで受信待ち受け状態になります。

- 応答は 10 秒以内に行ってください。10 秒以上送信・受信がないと、オートチャンネルセレクトを再開します。

- オートチャンネルセレクト中にモニター機能<→ 36 ページ>を ON にするとスキャン中のチャンネルをモニターできます。

⑩ 自動で空きチャンネルを探す範囲を選ぶ【BAND】

「オートチャンネルセレクト」を使用する時に、スキャンするチャンネル範囲を設定します。

「**AL**(ALL)」に設定すると 1ch ～ 11ch と h1ch ～ h9ch の 2 つのバンドをスキャンします。

「**Sbd**(SBD)」に設定すると現在のバンド内のみスキャンします。

応用操作　ファンクション設定

⑪ ボリュームが最小でも聞こえるようにする【MINV】

「**on**(ON)」に設定すると、ボリュームを最小にしても、受信音やビープ音が聞こえるようにできます。

誤操作でボリュームが最小になり、受信音やビープ音を聞き逃すことを防ぐことができます。

⑫ リモート機能を解除する【REMT】

スピーカーマイクロホン (SMC-34) のリモートキー（**【1】**、**【2】**、**【3】**）を誤って押しても動作しないようにできます<52 ページ>。

「**oFF**(OFF)」に設定するとリモートキーが動作しなくなります。

「**on**(ON)」に設定するとリモートキーが動作します。

⑬ ループ機能を使う【LOOP】

同時通話モード時に動作する機能です。

「**on**(ON)」に設定すると、同時通話の会話を第三者が聞くことができます。

第三者は同時通話モードでチャンネル、およびグループ番号を合わせる必要があります。

なお、この機能は最初に **【PTT】** 押した人のみ動作します。

- ループ機能を動作させると。自分の声が大きく聞こえることがあります。このようなときは、自分のマイク位置やマイク感度 (EMC-5F) を調整して声の大きさを下げてください。

⑭ マイクの感度を設定する【MICS】

相手がこちらの音声を聞き取りにくいときは、「**H**」に設定すると、マイクの感度を高くすることができます。

⑮ デュプレックス保持時間を設定する【DPxH】

同時通話モード時に通話が途切れやすいときは「**1**(1 秒)」または「**2**(2 秒)」に設定します。

⑯ レピーター保持時間を設定する【RPTH】

本機をレピーターとして使用している場合に通話が途切れやすいときは、アクセスするトランシーバーの信号が無くなっても送信を維持する時間を「**3**(3 秒)」、「**5**(5 秒)」、「**8**(8 秒)」に設定します。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください＜→ 50 ページ＞。

運用モード共通

症　状	原　因	処　置	参照ページ
● 電源が入らない ● 音量を大きくすると「プー」という音がする ● 表示がすぐ消える	電池が消耗している	充電する	16
		予備の電池パックや新しい乾電池と交換する	14 15
● 受信できない ● 音量ツマミを回しても音が出ない	【PTT】が押されて送信中になっている	【PTT】を離す	25
	グループ番号がちがう	グループ番号を相手と同じにする	32
相手と通話できない	運用モードが違っている	相手と同じ運用モードにする	26 43
	チャンネルかグループ番号が違う	チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる	24 32
	相手との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	11
チャンネルが切り替わらない	キーロックになっている	キーロックを解除する	37
送信ができない	「受信」が点灯している	チャンネルを変更するか、「受信」消えるのを待つ	24
表示部の照明が消えない	照明が常時点灯の設定になっている	設定を AUTO または OFF に切り換える	43
電池がすぐ消耗する	照明の常時点灯をよく使う	常時点灯は必要なときだけ使う	43
聞き取れない音声が入ったり、何も聞こえないのに「受信」が点灯する	スクランブルモードで通話しているグループがいる	そのチャンネルが空かないときはチャンネルを変更する	24
	同じチャンネルでのグループ番号を使っているグループがいる		32
チャンネルセレクトを止められない	キーロックになっている	キーロックを解除する	37

同時通話モード使用時

症　状	原　因	処　置	参照ページ
送信できない	イヤホン付きマイクロホンやヘッドセットが接続されていない。	イヤホン付きマイクロホンやヘッドセットを接続してください。	27

レピーターアクセスモード使用時

症　状	原　因	処　置	参照ページ
レピーターにアクセスできない	アクセスエラー音が鳴らない ●運用モードがレピーターアクセスモードになっていない	運用モードをレピーターアクセスモードに設定する	43
	アクセスエラー音が鳴る ●チャンネル番号、グループ番号がレピーターの番号と違っている ●レピーターとの距離が離れすぎている	チャンネル番号、グループ番号をレピーターの番号と合わせる	27 32
		通話のできる距離を目安に通話する	11
相手と通話できない	相手の運用モードがレピーターアクセスモードになっていない	運用モードをレピーターアクセスモードに設定する	43
	相手のチャンネル番号、グループ番号が違う	グループ内のトランシーバー、レピーターはすべて同一のチャンネル番号、グループ番号に統一する	29 32

初期設定の状態に戻す（オールリセット）

設定されている内容はすべて消去され、初期の設定状態に戻ります。

1　一度電源を切る

2　【△】と【▽】を押しながら【⏻】を押す

表示が全点灯します。

3　【△】、【▽】、【⏻】から指を離す

「SURE」と表示されます。

リセットを止めたい時は、【P】または【F】を押します。現在の設定に戻ります。

4　【PTT】を押す

ビープ音が鳴ってリセットされます。
初期設定の状態に戻ります。

オプション (別売品) について

本機には、次のようなオプション (別売品) が用意されています。

- **EMC-2B**..............イヤホン付きクリップマイクロホン
- **EMC-3**.................イヤホン付きクリップマイクロホン
- **EMC-5F**..............イヤホン付きクリップマイクロホン
(マイク感度切り替え付き)
- **EMC-6**.................イヤホン付きクリップマイクロホン (耳掛けタイプ)
- **HMC-3**................ヘッドセット (VOX/PTT 付き)
- **HMC-4**................リモコン対応ヘッドセット (VOX/PTT/TOT 付き)
- **HS-9**.....................プチホン型イヤホン
- **KHS-21**..............VOX 用ヘッドセット
- **KHS-28F**............ヘッドセット (耳掛けタイプ)
- **SMC-34**..............リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン
- **UPB-4L**...............リチウムイオンバッテリーパック (3.6V 1200 mAh)
- **USC-12**..............ソフトケース

- 同時通話モードでは EMC-5F、KHS-28F、KHS-21 のみ使用できます。その他のオプションを接続しても正しく動作しません。

- 製品名のあとに (G)、(C) と表記されている商品がありますが、これらも表記の無い商品と同一製品です。
- 本機に使用できるオプション製品が追加されたり、生産が終了することがあります。オプション製品についてはカタログ等を参照してください。

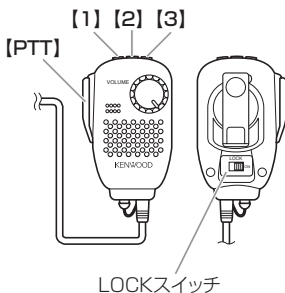
イヤホン付きマイクロホン (EMC-5F) について

- **PTT スイッチ**
  押しながら LOCK 方向にスライドすると、誤って PTT スイッチ押して同時通話が終了してしまうことを防ぐことができます。

- **マイク感度の切り替えスイッチ**
  使用状況に応じてマイク感度を切り替えてください。マイク感度は H(感度高)/M(感度中)/L(感度低) の三段階で切り替えられます。

スピーカーマイクロホン (SMC-34) について

- **PTT スイッチ**
  送信するとき、このスイッチを押しながら話します。

- **LOCK スイッチ（背面）**
  このスイッチを ON にすると、マイクのみの機能になり、【1】～【3】のスイッチは使えなくなります。お買い上げ時は、LOCK スイッチの位置が「ON」になっています。
- **【1】、【2】、【3】**
  下記の機能を割り当てられています。
  【1】：モニター
  【2】：オートチャンネルセレクト
  【3】：コールトーン 1

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証について

● **保証書（別添）**

この製品には、保証書を（別途）添付しております。保証書は必ず「お買い上げ日･販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

● **保証期間**

保証期間は、お買い上げの日より **1 年間** です。

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」(48 ページ) を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお問い合わせください。（別紙“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください。）

修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様御自身でお控え下さいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合等によって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、ケンウッドは一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

● **保証期間中は・・・**

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターが修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間経過後は・・・**

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

・補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

● 持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

● **修理料金の仕組み**（有料修理の場合は次の料金が必要です。）

技術料： 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれます。
部品代： 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。
送料： 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

仕様

チャンネル数	47 ch (ノーマルモード：1 ～ 11 ch、h1 ～ h9 ch レピーターアクセスモード / 自局レピーターモード / 同時通話モード：1 ～ 18 ch、h1 ～ h9 ch
送受信周波数	ノーマルモード (12.5 kHz ステップ) 422.2000 ～ 422.3000 MHz 422.0500 ～ 422.1750 MHz レピーターアクセスモード (12.5 kHz ステップ) 受信：421.8125 ～ 421.9125 MHz 送信：440.2625 ～ 440.3625 MHz 受信：421.5750 ～ 421.7875 MHz 送信：440.0250 ～ 440.2375 MHz 自局レピーターモード (12.5 kHz ステップ) 送信：421.8125 ～ 421.9125 MHz 受信：440.2625 ～ 440.3625 MHz 送信：421.5750 ～ 421.7875 MHz 受信：440.0250 ～ 440.2375 MHz 同時通話モード (12.5 kHz ステップ) 送信 / 受信：421.8125 ～ 421.9125 MHz 440.2625 ～ 440.3625 MHz 送信 / 受信：421.5750 ～ 421.7875 MHz 440.0250 ～ 440.2375 MHz
電波型式	F3E
周波数安定度	± 4 ppm
消費電流	受信時 (低周波出力 45 mW 時)......... 130 mA 以下 送信時 (送信出力 10 mW 時)............ 85 mA 以下 受信待ち受け時...................................... 75 mA 以下 バッテリーセーブ時 (平均値)............. 25 mA 以下
使用温度範囲	− 10 ℃～+ 50 ℃
電源電圧	リチウムイオンバッテリー端子：DC 3.8 V 乾電池端子：DC 4.5 V DC 電源端子：DC 5.5 V
送信出力	約 10 mW (ローパワー送信時 約 1 mW)
低周波出力	45 mW 以上 (8 Ω負荷時)
寸法 (突起物含まず)	幅 57.0 × 高さ 108.6 × 奥行 28.5 mm アンテナ長 183 mm
質量 (重さ)	約 155 g (付属バッテリーパックを含む) 約 165 g (単四アルカリ乾電池 x3 を含む)

※仕様は予告なく変更することがあります。

古紙配合率 100%再生紙を使用しています。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒 192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

● 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

ナビダイヤル　0570-010-114

(一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合せが可能です)

携帯電話・PHS・IP 電話からは、045-933-5133

ＦＡＸ　045-933-5553

住所　〒 226-8525　神奈川県横浜市緑区白山 1-16-2

受付日　月曜日～土曜日（祝祭日・弊社休日を除く）

受付時間　月曜日～金曜日　9：30 ～ 18：00

土曜日　9：30 ～ 12：00、13：00 ～ 17：30

● 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店、または最寄りのケンウッド・サービスセンターにご相談ください。（別紙“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください。）